

- 日 時 : 令和3年3月30日(火) 午前10時～午前11時30分
- 場 所 : 武蔵野市役所 西棟8階 812会議室
- 出席者 : 渡邊 大輔、田辺 安輝子、小美濃 妙子、矢島 和美、酒井 陽子、
村田 学、大久保 実、青木 如男(敬称略)

1 開 会 (略)

※委嘱状は机上配布

配布資料確認(略)

2 委員及び事務局自己紹介(略)

3 会長及び職務代理者の選出

資料2の武蔵野市シニア支え合いポイント制度推進協議会設置要綱第4条第1項の規定に基づき、会長に渡邊大輔委員が互選された。また、設置要綱第4条第3項の規定に基づき、会長が職務代理者に酒井陽子委員を指名した。

【会長】 今年度に関しては何もできなかった、フレイルの入り口に立っているような気がするという意見もあったが、それはこの制度よりも新型コロナウイルス感染症による影響が大きい。ボランティアを日々の生きがいに行っている方々が、元気で、かつ安心して活動するために、私たちに何ができるのか、この場で知恵を出し合い議論していきたい。

【会長職務代理者】 オンライン(Zoom)など、今までとは違ったかたちの支援の仕方を模索して、実践していく方向になってきた。支援を必要としている人も、支援をする側も、お互いに健康で知恵を出していく。新型コロナウイルス感染症をマイナスではなく、好機と捉えて次のステップに進むアイデアを出し合っていきたい。

4 議事

(1) 当協議会目的及びスケジュールについて

事務局より資料2、3及び4について説明があった。

(2) 令和2年度事業実績報告

事務局より資料5について説明があった。

【会長職務代理者】 コロナ禍において SNS などの活用について意見が出たが、体を動かさない、対面しない状態のボランティアは、この制度の本来の目的である介護予防と健康寿命の延伸には若干ずれがあるのではないか。本来の基本的なボランティア活動については、施設において具体的にどんなものが提供できるか。

【委員】 当施設で行っている活動に買い物ボランティアがある。オンラインによる活動については Zoom を利用して体操や太鼓の演奏など体を動かすものもある。今後は園芸ボランティアや繕い物ボランティアも状況や品物を選びながら再開していきたいと考えている。

【委員】 (当施設では) ボランティアの受け入れはできなかった。施設には様々な方が出入りする。また、サポーター自身が高齢な方が多く、外出をすることによってコロナに罹患することが心配だとボランティアの方から断られるというケースもあり、受け入れ自体を中止するという対応を行った。

【委員】 地域の受け入れ団体であれば、不特定多数の方が来るという状況はなく、普段活動しているメンバーがこの制度を利用して生きがいになっている。上半期はほぼ未活動だったが、下半期になり徐々に動き始め、ポイントを楽しみに取り組んでいるという方もいる。ただ、発足時に加入された一部の方が残っているのみで、新たに加入するメンバーがいなのが現状である。

【会長】 Zoom や SNS など新しいテクノロジーを使おうとしているが、高齢のボランティアが多い中ではなかなかアイデアが生まれないときも多いと思う。こういった経緯から新しい挑戦をしてみようとなったのか、ご意見をいただきたい。

【委員】 ボランティアのブログを立ち上げており、ご覧になった方から自分もできるかもしれないと提案してもらい、新しい活動が行われている。

【会長】 ブログの取り組み等で、これはできるかもと思わせることが大事ということがわかった。YouTube についてはどうか。

【委員】 YouTube のきっかけは子育て事業で、5～10 分の子ども向け番組(人形劇)を作成し、徐々にメンバーが増えていった。私がつくったあの人形が実際に YouTube に上映される、というところでとても生きがいをもって楽しみに取り組んでいただいている。

【会長】 令和元年度から2年度を比べると、活動実績の数値はほぼ3分の1から4分

の1に減っている状況だが、他自治体と比較するとそこまで悪い数値ではない。むしろできている部分もあるので、工夫があるということは重要であると思う。

手帳の更新のみが54名だが、コロナの状況が続き、当分だめかもしれないと思い、サポーターの活動をもう終わりにしようとする方が増える可能性がある。更新に関してはいつでも、いろんなきっかけで戻る、ということが可能であった方が望ましい。

フレイルという概念には、動かすこと、食べることなどの体のフレイルのほかに、社会的につながっている、関わりがあるということに対するソーシャルフレイルがある。Zoomで健康が落ちるということは避けたいが、Zoomでも会える、反応がある、ということは大事であり、体の健康だけではない点も加えらるともう少し広く考えられると思う。

【事務局】 今年度はコロナで受け入れが難しく、活動したくてもできなかったボランティアが多かった。次年度はそういった方をいかに引きとめておくのか、やる気を維持してもらうのが重要と思っている。具体的にはニュースレターなど市からアプローチの回数を増やしたり、それぞれの協力施設・団体の中でのコミュニケーションを継続して図っていく取り組みを検討している。

【会長】 コロナ禍で活動ができなくなったサポーターが多いが、できる前とできなくなった後の変化についてサポーターとしてご意見いただきたい。

【委員】 70～75歳を過ぎるとパソコンの操作は非常に厳しくなり、スマートフォンやZoomについては自分の使う範囲で精いっぱいという状況。そのレベルアップをする場があれば新しい活動につながるが、この時期なのでその場すらないのが現状である。

また、同じ施設で活動しているサポーターと会う機会がない。サポーター同士のつながり、絆を作る場を持つ方法を考えるが、コロナ禍ということもありうまくいかない状況である。

【会長】 大前提としてスマートフォンを使っていることは素晴らしいし、そこで可能性が非常に上がる。できないと思うよりも、できるところが実はある、ということがとても大事で、では、サポーターを支えることについて何ができるのかと考えていきたい。

【委員】 私自身、やる気と時間はあるが、スマートフォン等の使い方についてどこへどう依頼すれば教えてもらえるのが問題で、やり方がわからないので全く先に進まず、自分自身にイライラしてしまうことがある。

【会長】 やる気がある方々をどうするかというところが一番大事である。次年度の計画について議論していきたい。

(3) 令和3年度事業計画

事務局より資料6について説明があった。

【会長】 説明会について4・5月にオンラインのハイブリッド開催を試行するとのことだが、どのような経緯からやってみようと思ったのか。

また、施設間での情報共有、ボランティア間での情報共有についてとても大事だと思うが、特に団体間では具体的にどのように行っているのか、行おうとしているのか。

【事務局】 ボランティアセンター武蔵野より提案があり、コロナの状況もあるので、オンラインで並行して行った場合、どのくらいの需要があるのかという実験の意味も含めて、4・5月に開催してみようとなった。また、使用している会場が狭いこともあり、応募者が多いと入りきらない可能性もあるため、一度オンラインで開催し、ある程度の視聴者数が見込めるということであれば、以降の説明会についてハイブリットを検討していく。

【事務局】 情報共有について、現場の生の声というとは今後の施策について役立つ部分が多いと考える。横のつながりが少し弱い部分もあったが、コロナのこの状況を逆手にとって、アンケート調査を行ったことが大きかった。これであればできる、こんな情報が聞きたい、など協力施設・団体の皆様からいただいた情報をきちんとフィードバックする仕組みをうまく作っていくことが重要だと思う。

【委員】 ポイントの交換状況について、人間ドックの昨年の交換件数が非常に少なかったと聞いている。また今年については誰も交換していない状況があるが、魅力がないのだろうか。

【ボランティアセンター武蔵野】 交換窓口で対応する職員の実感からすると、QUOカードや図書カードはすぐに使えるので人気がある。人間ドックについては、一昨年は2～3名ほど交換された方がいて、とても助かる、実際に受けに行った、とお声をいただいた。

【委員】 これまでの話から、庭のメンテナンスや草取り、園芸などといった対面が必要ではない活動をやっている施設もあるとのこと。今まではシルバー人材センターに依頼をしていたが、ボランティア活動としてサポーターにお願いできるのか。

【武蔵野市民社会福祉協議会】 有料で行うようなきちんとした整備ではなく、そういった活動を通してサポーターの生きがいつくりや健康づくりの場として、施設側から提供しても良いということであれば、サポーターの活動場所として検討してもらいたい。まずはボランティアセンター武蔵野へご一報いただければと思う。

【会長】 今までと全く同じ質を求めるのであれば、やはりプロに依頼した方がいい。ただ、ボランティアの方は得意なことをやりたいという気持ちがあり、気合を入れて取り組んでもらえる場合もある。

ボランティア活動も、ただ「庭をきれいにしてください」だけだと面倒であると思われる場合もあるが、「この庭を好きに、皆さんの思うようにやってください。でも、できれば利用者が楽しいように」と、依頼の仕方を工夫するだけでも園芸という言葉が持つ意味や魅力が変わってくるので、ボランティアの方々を巻き込めるようにやるのが良いのではないか。

【委員】 園芸は外での非接触の活動なので十分できるうえに、会長の発言にあったとおり、好きな方にはたまらなくやりたい作業なので、家ではできないことでも施設に來ればできると思ってもらえると良いと思う。

【会長】 このような場で情報共有して、新しい活動が生まれていけば、あるいは再開できればと思っている。

【会長職務代理者】 活動していないサポーターが多いことに対して、サポーター交流会を開催するとあるが、コロナが引き続き厳しい状況にある中で、実施内容や方法について具体的にどんな形で開催するのか。

また、シニア支え合いポイント制度のサポーターはボランティアが定着しないという問題もあったかと思う。ボランティアセンター武蔵野に登録しているベテランボランティアには、一週間の生活の軸がボランティア活動になっており、健やかな生活を送れることを実践、実感されている方もいる。このようなベテランボランティアとサポーターの交流の場があると、ボランティアをすることの意味が非常に明確になるのではないかと思う。

【事務局】 サポーター交流会の内容としては、ほかの方がどのような活動をしているのか情報共有するために、活動しているサポーター何名かに自身の活動についてはお話しいただき、それぞれの交流の場を作りたいと考えている。

また、活動実績がなかなか難しい施設についても、コロナの状況ではあるが、こういう活動ならできる、と質疑等で話を深めてもらえればと思う。

ブース形式にてして施設のブースにサポーターが行っていただく形式や、施設やサポーターの方に壇上でお話いただく形式など、なるべくわかりやすいような形を検討している。

【事務局】 ベテランの方との交流に関しては、非常に貴重なご意見をいただいた。

サポーター交流会も交流会以外にも協働する機会があるかと思うので、ボランティア

センター武蔵野等を含めて考えていければと思う。

提案いただいた内容はうまく融合すると、武蔵野市のボランティアの裾野が広がるだけでなく、厚みもまた増してくるかと思う。非常にありがたい提案である。

【会長】 サポーター交流会という、気合が入っている、敷居が高いイメージがあるかもしれないので、例えば、武蔵野市のボランティアの人が集まれるボランティアの日のようにして、もちろんシニア支え合いサポーターもぜひ来てくださいという形にすることもできる。単に交流してもらっただけではなく、集まったボランティアの人たちに感謝の気持ちを込めて、おもてなしするという形にするなど、どのような形にするか、どうすれば参加したり交流したりしていただけるかアイデアを出していきたい。ただし、今すぐにはなく状況を見ながら考えていく必要がある。

活動していない人には、その人たちの関心があるような、例えばエンディングノートや遺言の作成などのイベントと組み合わせると、年齢が高い方にとっては良くも悪くも刺さると思う。来てもらって、プラスアルファまでできることもあると感じさせることを考えていくことはできると思う。

【会長職務代理者】 令和2年の初め頃、ボランティアセンターでの Zoom 講座をいちはやく取り入れたが、まずはスマホに Zoom のアプリを入れるというところからつまづいた。今は、自分で動画を作れるまでになったが、初めにつまづかないような丁寧なサポートが必要である。何よりも Wi-Fi が使えないと、お金の問題が絡んでくる。事業計画にオンライン、オンラインと書かれているが、高齢の方にとってお金は非常に重要なことなので、そういうネガティブな部分は非常に丁寧に確認しながら、というところをぜひ押さえていただきたい。

【武蔵野市民社会福祉協議会】 Zoom の使い方に関しては、コロナ禍においてボランティアセンターでも Zoom をまずは使えるようになる講座を始めた。

緊急事態宣言が終わったら、今後は、ボランティアとして Zoom を教える側の講座もやろうとしている。その中では、回線の使用料など、お金に関わってくるという大事な視点を含めて、市民の方にきちんと伝えられるようにしていきたいと思う。

【会長】 共同研究をしているダイヤ高齢社会研究財団の方が「高齢者向けの Zoom マニュアル」を作成されているので、後程皆様に共有する。

ただ、Wi-Fi や通信料に関しては難しいところも現実的にはあり、それをどう丁寧に対応できるか、支えていくのか、といったオンラインに対するアクセスの保障については

色々な形で考えていくことが必要。

サポーターとしてご参加いただいている委員の方は、この計画等を聞いて、来年できる、もしくはこういったことをぜひ入れてほしい等ご意見あるか。

【委員】 オンラインでの活動等については、自信はないが、なんとかできるような気がする。あえてお願いするとすれば、サポーター同士の共有の場、会って会議をする場を持つことが一番ではないかと思う。

【委員】 今までボランティアをやっている人たちが、このポイント制度に乗りかえるということをなかなか理解していなかった。ボランティアがこのポイント制度につながるということがなかった。当初のメンバーからあまり増えていない。また、今現在、最高齢がどのくらいだとか、活動自体が元気で続けられているのか、ということは把握しているか。

自分たちの趣味がいかされるなら、こんなことをしてみたいなど、相互の理解でやっていけるなら素晴らしい、いいことだと思う。今は、フレイルと様々なところで言われているので、どのような形であれ介護予防策は必要なので、そのきっかけが支え合いポイント制度というのは、改めていいものだと思う。

【会長】 年齢構成等について事務局から情報共有いただきたい。

【事務局】 今年度については、コロナの状況もあるが、先ほど実績報告をお示ししたとおり、いろいろと工夫をしていただきながら、受け入れ、そしてボランティア活動をしていただいているところで、本制度については着実に受け入れられ、進捗している状況かと思う。制度の大きな目的として、社会参加・社会貢献活動への促進があるので、やはりこの制度は、何かお手伝いをしたい、ボランティアに興味がある、そういった方に対して背中を押すインセンティブのような取り組みだと思っている。

年齢構成については、ボリュームが一番多い層が 70 歳から 75 歳の層、次が 75 歳から 80 歳という層。70 歳からが 135 名、75 歳以上 80 歳が 116 名で、かなりのボリュームが 70 代という形になっている。65 歳以上の方が 73 名で、やはりここの層にいかに参加していただくかが今後のポイントになってくると考える。90 歳以上については、3 名の方に登録いただいて、今年度も実際に活動していただいている。このようなこともまさに介護予防、社会参加に当たると思う。

【ボランティアセンター武蔵野】 説明会参加者によると、参加のきっかけは「ボランティアをしないとずっと思っていたけれども、どこでどう相談していいかわからなかった」

と、まず行ってみようと思ったというご意見が一番多い。

【会長】 私自身、横浜市でも研究を行っているが、ボランティアポイントに参加される方は、むしろ背中を押すところがとても大事で、実は地域とのつながりがあまり多くない方も結構多い。福祉の会や、いきいきサロンのような活動は、比較的地域とつながりのある方が行っている。武蔵野市も横浜市も都会な部分もあるので、必ずしも地域に知り合いがいるとは限らない。また、ボランティアセンターの活動となると、抜けられない、真剣なものと感じてしまう方もいる。そういう時に、ポイントをもらうということが言い訳にも使えて、ちょっと参加しやすい。一步目を踏み込んでくれた人をどう支えるか、ということは次の話だが、ちょっと関心があるくらいの層をターゲットにするのがこの施策だと思う。そういった方々をどう扱うかという部分がとても大事になる。

もう一点、先ほどの委員から発言があったように、大事な点は、ボランティアの方の高齢化が進んでいるということ。どうしても 80 歳ぐらいに一つのやめどきが来てしまうので、それをどう乗り越えていただくのかが重要。ただ、例えば源氏物語の読み聞かせや、寝たきりの方が自分は動けなくても、電話をして傾聴をすることで「私はボランティアをやっている」と言えることもある。その人ができること、その人がやりたいこと、その人が好きなこととかを少しでも考えていけると、実はボランティアはどこでもできるかもしれない。それぐらいの軽さを持ってやっていく。「80 代になると、迷惑をかけるから」というところを何とか乗り越えたい。そういふうにつながりを維持して、すごく頑張った方がちょっと疲れた時に、軽いボランティアをやりませんか、ぐらいの形ができるようになるといいのではないか。このコロナの状況で、全てはできないが、まずできるところから少しでも伸ばしていければと思う。

5 その他

【事務局】 来年度については、別途お知らせをする。

6 閉会